

関東大震災朝鮮人・中国人虐殺犠牲者 102 年追悼祈祷会

共同の祈り

＊最後に司会者が、「これらの共同の祈りを」と言ったら、続いて全員で、「主イエス・キリストのみ名によっておささげいたします。アーメン」と唱和します。

NCC 東アジアの和解と平和委員会

神さま、私たちは、102 年前の関東大震災の時におきた朝鮮人・中国人に対してのジェノサイドの事実を思い起こしています。

1923 年 9 月 1 日の関東大震災における虐殺事件で亡くなられた、多くの人々の苦しみと無念に思いを寄せ、心からの哀悼を捧げます。

和解と平和を実現する新しい命の道を示し、対話と和解への道を歩ませてください。

在日大韓基督教会

102 年前に起こった関東大震災で命を奪われた朝鮮人・中国人虐殺犠牲者を悼む祈祷会で心をつににして祈ります。

震災による死者や行方不明になった人の数は約10万5千人と言われています。しかし震災から生き残ったにもかかわらず流言飛語によって奪われた命が、そこに数えられているのかさえ明確にはされていません。今でも関東大震災による朝鮮人・中国人虐殺の事実がなかったかのような言動がインターネットでは飛び交い、国や東京都、近隣の自治体でも正確な調査さえ行っていないです。

貴い命が奪われ、その死がなかったかのようにされていることに憤り、胸が張り裂ける痛みを覚えます。私たちは決して忘れることなく記憶をつなぎつつ、犠牲者と遺族のうえに主の平安があることを願います。

日本キリスト教会

愛と憐れみに富む主イエス・キリストの父なる神様。

1923 年 9 月 1 日に起きた関東大震災の混乱のさなか、日本人は、朝鮮人・中国人の方々の無実のまま尊い命を奪いました。恐怖と流言に流され、私たちの社会が同調の空気を強め、差別と暴力を生み、多くの命を奪う虐殺という悲劇が起こったのです。あれから 102 年。犠牲となられた方々と関係者を覚え、その痛みを心に刻みます。

主よ、私たちが過ちを真に悔い改め、二度と繰り返さぬよう導いてください。今なお、世の中の偏見に苦しむ人々の声がかき消されることがあります。どうか、私たちが圧力に屈せず、平和と正義を貫く勇気をお与えください。そして、この記憶を次世代へと伝え続けさせてください。

日本聖公会正義と平和委員会、日本聖公会日韓協働委員会

102 年前のあの日、関東大震災によって犠牲となった方々、避難生活をする中で偏見と差別によって犠牲となった朝鮮人や中国人の虐殺犠牲者の魂の平安を祈ります。教会が当時もその後も虐殺の出来事に口を閉ざし、キリストの愛から遠ざかっていたことを心より懺悔いたします。負の遺産を直視することなく蓋をして、同じ過ちを繰り返さないように、すべての人々の目を開かせてください。敗戦から 80 年目を迎えた今年、私たちがこの歴史を語り継ぎ、すべての人のとなりびととなる愛に生き、和解と平和の器として歩むことができますように、お導きください。

日本バプテスト連盟日韓・在日連帯特別委員会

神よ、今日、共に祈る仲間をお与えくださり感謝します。

102 年前の過ちを、今一度、思い起こします。先の参院選では、外国籍住民に対する根も葉もないデマが拡散され、公然とヘイトスピーチが行われました。神よ、102 年前と同じ過ちを繰り返すことにつながる言動を、決してゆるさないでください。主イエスが、排除されていた人びとと共に生きられたように、今、私たちに差別と排除に立ち向かう勇気をお与えください。国籍やルーツの違う友らからの共生への呼びかけを、主からの招きと受けとめて、歴史と事実に基づき、共に生きる社会をつくりだしていくことができますように。そのために、私たち一人ひとりをお用いください。

日本カトリック正義と平和協議会

102 年前の関東大震災で、多くの日本人が官民一体で朝鮮人、中国人を虐殺し、あるいはそれを黙認しました。とりわけ朝鮮人の虐殺は、当時の朝鮮半島植民地政策で生まれた差別感情と、それに基づく恐怖心の結果でした。そしてその事実を、その後今日に至るまで、日本社会は否認し続けています。現在、日本で生活する外国人へのヘイトクライムを正当化する排外主義的思想の横行は、この否認の歴史の延長線上にあります。

主なる神様、今なお、この過ちの中にある日本の私たちを憐れみ、回心の恵みをお与えください。あらゆる属性を超え、違いを尊びあい、まことの「兄弟・姉妹」として手を取り合う世界をつくる希望を、私たちにお与えください。

NCC 靖国神社問題委員会

主よ、私たちは102年前の関東大震災朝鮮人・中国人虐殺の事実に向き合い、人への恐れや敵愾心が、いとも簡単に虐殺にまで発展する恐ろしい事実を覚えました。102年後の今のこの日本社会を思う時、ヘイトが尚も街で叫ばれ、それに多くの民衆が拍手を送るという恐ろしい事態が起っています。

主よ、私たちの心から人への恐れ、疑い、憎しみを取り除いてください。共に生きようとする信頼と愛の心を増してください。社会全体が敵意に傾く時も、決して黙認せず、真理に立ち、憎しみに抗い、愛に生きる道を決断する勇気を与えてください。

NCC 在日外国人の人権委員会

命と平和を私たちに与えられる神よ。この時を感謝します。罪無き命が奪い取られた過去の歴史に向き合うために、共に祈りを合わせる私達を力づけてください。そして過ちを繰り返すことのないように、私達を導いてください。今この世界のいたるところで差別と排除、憎しみと絶望が支配しようとしています。どうかあなたの愛の力によって、平和と希望とを求め命を守り尊ぶものへと、この世界とそこに生きる一人一人を造りかえてください。

NCC 教育部

102 年前に起こった虐殺のようすを、現場にいた子どもたちが絵や作文に残しています。その描写は正確で、何が起こったかを今に伝えてくれています。残念なことに虐殺に疑問を抱く子どもはほとんどいませんでした。大人の差別意識がそのまま子どもたちに植え付けられていたのでしょう。今、大人たちの排外主義が子どもの世界に入り込んでいます。どうか私たち大人が、過去の大虐殺の事実に向き合い、心から悔い改めて、差別のない平等な社会へとしっかりと歩みを進めてい

くことができますように。そして、ルーツによって差別されない学びと成長の環境を作っていけるように、知恵と力を与えてください。

外国人住民基本法の制定を求める全国キリスト教連絡協議会

今から 102 年前の 11 月、安中教会の牧師・柏木義円は『上毛教界月報』にこう記しました。「朝鮮人虐殺事件に至っては、国家のため社会のためという名をもって、官憲や良民がこれをなし、一部社会がこれを是認し、少なくともこれに共鳴同情するのだから、これ実に由々しき一大事で、軽々しく見過ごすべきではない。これは軍隊教育の余毒、偏狭なる国家主義教育の余弊、軍国主義の悪影響である」

柏木は官憲から記事差し止め命令を受けながら、それでも柏木は抑えきれぬ憤怒の中でこう記し、モーゼ十戒の「殺すなかれ」と説きました。

日本社会に生きる私たちは今、排外主義の嵐にさらされ、100 年前の状況が再現されようとしています。神様、どうか私たちに、柏木義円がそうしたように、時代に立ち向かう勇気と知恵と信仰を与えてください。

全国キリスト教学校人権教育研究協議会

平和の主なる神さま、今年も思いを同じくする方々と共に、ここから追悼の祈りを捧げます。日本の歴史教科書には、102 年前の大震災時に日本で起きたジェノサイドについて全く記載されていません。そのため、ドイツのホロコーストは知っていても、自国での大虐殺について教えられていません。わたしたちは、そのような日本の歴史教育の問題を克服するために、これからも取り組みます。歴史を導かれる神さま、わたしたちを支え、導き、お用いください。

マイノリティー宣教センター

神よ、私たちは今年もあなたと歴史から問いかけられています。102 年前のあのとき、この地を生きる人々に根付いていた差別と偏見の心が、恐怖と結びつき、デマに煽られ、大勢の朝鮮人や中国人の虐殺へと向かいました。デマは人を殺し、集団殺戮をも生み出すのです。この恐ろしい事実、人間の事実を心に刻み、今年も悔い改めの祈りを捧げます。

神よ、私たちはいま、それが過去のものではないと強く感じています。あの日、人々を支配した「外国人住民への排斥の言葉や憎悪によるデマ」があからさまに叫ばれています。外国にルーツを持つ方々が、どれほど不安におののいていることでしょう。神よ、助けてください。私たちをこのような分断と排斥の道から救い出し、違いを受け入れ共に生きる者となさしめてください。

平和を実現するキリスト者ネット

歴史と向き合うことは、ときに苦痛を伴います。隠された過去の覆いを取りのける困難、事実を隠そうとする力に抗う勇気、そして自分たちの責任を問われるという覚悟。しかしイエスが幸いだと言ったのは「平和を愛する者」でもなく、「平和を望む者」でもなく、「平和を実現する者」でした。

平和の神よ、わたしたちに、過去と向き合う勇気、現在と向き合う知恵、本気で未来と向き合う希望を与えてください。平和を実現するものとならせてください。

司会者 これらの共同の祈りを

全 員 主イエス・キリストのみ名によっておさげいたします。アーメン